



ミライの森 森のウッドデッキづくり

こそだての森の活動「そら」「森のアトリエ」の拠点である川西市黒川公民館、その横にあるウッドデッキが老朽化して使えなくなり、北摂里山文化保存会さんとコクレオの森共催で改修作業を実施することになりました。そして、広葉樹林や小川、ピザ窯のあるロケーションに溶け込み、安全で持続可能なウッドデッキの設計と完成までの指導を(株)坂井建築事務所さんにご協力をいただき「みんなでつくろう ウッドデッキ in 黒川公民館」プロジェクトがスタートしました。

夏の日差しが残る10月11日、このプロジェクトに賛同して下さったたくさんの人が集まり、まずは老朽化したウッドデッキの解体作業です。木は朽ち果てているもののビスがなかなか抜けずに四苦八苦しましたが、マンパワーで予定通り作業終了。初日のスムーズさが、今後の見通しにつながります。早速坂井さんの指導の下、ウッドデッキ完成までの工程がスモールステップで進められていきました。ノミと金槌での大入れ、ほぞ穴作りの木材の加工、90個の束石の設置、束柱と横柱の組み立て、床板張りとは本格的な作業が続いていきます。経験を積んでいるうちに、坂井さんから仕事を任せられるプロが出現したり、自分で小屋を建ててみようかなと考えてみたり、体験を通してできることが増えるとやってみたい気持ちになります。

焚火で暖を取る季節になった12月13日、憩いの場に必要なテーブルや椅子が作られ、そしてなんと滑り台が2台も取り

付けられて“遊べる”ウッドデッキが完成しました。解体作業を含めた日数は14日、一緒に作業をして下さった方は延べ200人!!まさに“みんなでつくったウッドデッキ”の完成です。このプロジェクトでは、それぞれの工程にたくさんの仕事の提案があり、どれを選択するのは自分次第、出入りも自由。大人も子どもも、自分軸で関わりながらウッドデッキを完成させていきました。「あそこにツリーハウスがあるといいね〜」「ブランコいるよね」「やっぱりハンモックでしょ!」。みんなで作ったウッドデッキから、みんなで創るミライへと思いがひろがります。指導して下さった坂井建築事務所の坂井さん、参加して下さった皆様に心より感謝を申し上げます。春には、ピザパーティーを予定しています。乞うご期待!(西川)



こどもの森 2学期のこどもの森

1学期はほとんどがオンライン学習でしたが、2学期は毎日の登校になり、にぎやかな日々を送ることができました。しかし、遠方から通う人もいるため、通勤のラッシュ時間を避けるため、一日のスタート時間は遅く、放課後も学校に残れず、できるだけ早く帰宅することをお願いしました。毎週の子どもたちとの集会の場では、マスクの着用や人との距離のことなど、コロナ対策のことについて繰り返し話し合うことが多く、3学期も引き続き、スタッフもいっしょに考えていきます。

小学部では、低学年はお泊まり会を、自然体験交流センター「わくわくの郷」で行いました。今年もお泊まり会をしたいという声があがり、実行委員の人を中心に昼休みに集まって話し合い、準備を進めました。意見が食い違うことも、うまくいかないこともありましたが、やりたいことがたくさん詰め込まれた2日間になりました。

高学年は、修学旅行の準備で大忙し。資金集めのためにフリーマーケットを3回行い、能勢の養蜂家の和田さんから頂いたミツロウで、選択プログラムの時間に蝋燭やラップを作り、それを販売しました。また、低学年と同じように、内容について何度も話し合いました。1月の中頃、有馬温泉に向かいます!

中学部は、ワールドオリエンテーションの時間に「政治と沖縄」のことについて学んでいます。また、国内研修旅行として2月には沖縄に赴き、現地の方に案内してもらいながら、学びを深めていく予定になっています。

全体では、ハロウィンパーティーと体育祭という2つの行事がありました。体育祭は、例年のように保護者や親戚、友だちなどは参加できず、子どもたちだけの体育祭になりました。応援の数は少し減りましたが、子どもたちの声がよく聞こえ、ちょっとしたことで子ども同士で声をかけあったり、励ましあったりしていることに気づくことができました。それでも、また来年度は、たくさんの人とにぎやかな体育祭ができたらなあと思っています。(藤丸)



学ぶと生きるはデザインできるか

保護者より

マスクが日本中から消えた2020年。イソジンうがい液まで店頭から消えた時、なぜ?と違和感を覚えた。恐怖が人の思考力を奪うのか? ある記事を読んだ時、それは我々が受けてきた教育が原因の一つと思われた。



OECDの調査で「批判的に考える必要のある問題」「正解のない問題」に取り組む教育を日本ではほぼ行っていないことが分かった。つまり、「現実を批判的にとらえて独創的に創意工夫する」教育を受けたことがないので仕方のないことなのだ。

答えのない、出口の見えない問題が溢れる今、自分はどのように生きていく? その考えは誰のもの? そう決めたのは誰? 今こそ、世論の合意の捏造からの自律と自立が求められている。

「学ぶと生きるをデザインする」のはそうたやすいことではない。こどもの森学園中学部の3年間の学びは入口に過ぎない。3年間で見つけられなくてもいい。ずっとデザインは続く。変化しながら。そしてもっと自由に。子どもも大人も「学ぶと生きる」をずっとデザインしていこう。(芝川【百】)

トピック!

こどもの森の紹介動画完成!

11月に箕面こどもの森学園の紹介動画が完成しました。今回、こどもの森を撮影して下さった川崎芳勲さんは旅するフォトグラファー。彼の作品は、世界各地に生きる人々の表情や生活を生き活きと写しだしています。

本来なら海外で撮影をしているはずでしたが、コロナ禍で海外に出ることもできず国内活動に専念していました。そんな中、今後ドキュメンタリー映像にもチャレンジしていきたいという思いから、6月のある日【企業・団体向け映像撮影、募集】という発信が。しかも無償で! 私はその瞬間に「1枠キープさせて!」と速攻メッセージを送りました。こどもの森の個性を輝かせる作品を撮ってくださると思いスタッフに相談しました。応募条件の一つに「思いをしっかりと言葉にできる方」とありましたが、動画の中に出てくる学習スタッフ一人一人の言葉はまさに! そして川崎さんも心が伝わる映像を撮ってくださいました。映像に出てくる子ども達のマスク姿、こんな時もあったよねと言える日が1日も早く来ることを願うばかりです。(岡本)

おとなの森

いろんな世代が対話する場所~教育カフェ

“教育カフェ”は「対話の文化」を育み、その先にある「子どもたちを豊かに育てることができる社会を創っていこう」という想いで2012年にスタートしました。ゲストスピーカーを招き、話題提供をしてもらい、対話を重ねています。2020年度からはオンライン開催になりました。

私は今年の夏から教育カフェの実行委員をしています。教育学部に在籍していて、これまで小中高生とは勉強や対話を通して関わるが多かったのですが、教育カフェでは中高生から自分より一回り以上年上の人と同じ目線で対話しているのが、新鮮な感覚です。オンラインでの開催ですが、いろんな年齢の人が同じ話題について本音で話している時はとてもほっこりした気持ちになります。これまでなら関わる事がなかったゲストの方に連絡をしたり、振り返りで改善案を考えたりと毎回楽しく実行委員をしています。

100回の開催を目指して、現在77回。この温かい場を100回と言わずにもっと広げていけたらなあと思います。(香川)

ミライの森

ロハスウィーク 2020

今年のロハスイベントは、ロハスウィークという形で開催しました。コクレオの森の11のガイドラインを1日1つずつSNSで発信した「カウントダウン」。黒川・能勢エリアで地元店舗と連携して行った「里山ロハス」。そして、音楽イベントやワークショップを行った「オンラインフェス」。さて、振り返ると盛りだくさんの内容になり、流行り病で先の見えにくい世の中、イベントの可否も含めて、可能性を探りながら作り上げた結果だと思えます。そして、このイベントから新たな可能性も感じています。まず、コクレオの4つの森、それぞれの要素が詰まったイベントになったこと。次に「里山ロハス」「オンラインフェス」それぞれ単独で成り立つ内容であったこと。そして、こんな身近に大人が対話しながら創造できる「場」があったこと。願わくば、ロハスという枠に囚われず、年に1度、私たち大人が率先して楽しみながら創るイベントがほしい! さてさて、何をやりましょうか。みなさん、2021年も一緒に踏み出しましょう!(松浦)



2020年度 認定 NPO 法人コクレオの森総会の報告

6月13日に通常総会、8月22日に臨時総会が開かれましたが、今回は新型コロナウイルス対策のため、オンラインで行われました。

【通常総会】

(1)2019年度事業報告 (2)2019年度活動決算 (3)2020年度事業計画 (4)2020年度活動予算 (5) 役員の変更について審議された。

(1)～(4)については、全員異議なく承認された。

「役員の変更」については、6月8日に現役員の任期が満了するので、次期役員を選出することになった。投票の結果、理事に小野淑子(新任)、佐野純、辻正矩、辻岡拓郎、藤田美保、藤丸浩志(新任)、松崎雅夫、守安あゆみ、芳仲猛、監事に森本哲夫、屋代由佳(新任)の各氏が選ばれた。なお、理事の互選により、代表理事に辻正矩氏、副代表理事に守安あゆみ氏が選ばれた。

【臨時総会】

「新型コロナウイルス感染症対応緊急資金の借入れ」と「2020年度活動予算の補正」の2つの議案が提案された。「資金の借入れ」については、国の新型コロナ感染対応緊急資金の借入れについて審議した結果、全員異議なく承認された。緊急資金借入れによって、予算案の一部が修正されるので、その補正案が提案された。審議の結果、全員異議なく承認された。(辻)

出版のお知らせ

コクレオの森の辻正矩代表理事が書いた「小さな学校の時代がやってくる スモールスクール構想・もうひとつの学校のつくり方」という本が、2月初めに築地書館から出版されます。市民が容易につくれる学校制度の提案ですので、ぜひご覧になってください。コクレオの森で直接ご購入の方には、税抜き価格にて販売いたします。



コロナ寄付金の報告

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月7日には緊急事態宣言が出て、コクレオの森でも、こどもの森の学習をオンラインで行い、イベントや見学者受け入れも中止することになり、事業を縮小せざるを得なくなりました。

収入減に伴い、新型コロナウイルス対応のためのご支援をお願いしたところ、総額で約130万円のご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。そのうち、30万円をICT環境の整備に、30万円を生活困窮家庭の学習費支援に、残りの70万円を法人の収入減少への補填に充てさせていただきます。

新型コロナウイルスに関して、政府の対応やマスコミの報道など、いろんな情報や考え方が交錯する中、「どういう視点でこの状況を捉えて、何を大切にしようか」という問いに、私たちは向き合っています。そのことを、コクレオの森としても問い続けながら、民主的で持続可能な社会を、みなさんと共につくっていかねばと思います。(藤田)



第3号冬季

コクレオてらす



写真：親と子の土曜クラス そら in 里山

こそだての森 インフォメーション

『こどもの森のハッピーアドバイス』

第2回：2/10(水)「子どものいいところを見つけよう！」
第3回：3/10(水)「自分への手紙～私から私へ心を込めて～」
時間：10時～12時 / 参加費：1500円 / 定員：12名
お申込み：<https://kosodatecafe.peatix.com/>

講師

守安あゆみ(認定子育てHATマイスター*/NPO法人コクレオの森副代表理事)
坂本田鶴子(認定子育てハッピーアドバイザー*/コーチ・カウンセラー)

*子育てハッピーアドバイスの著者である明橋大二医師が提唱する一般社団法人HATの認定資格

ファシリテーター：植木尚美(ことの美代表)

《編集後記》

この第3号から編集に携わせていただきました。世間が大変な時期だからこそ、未来を育む活動に微力ながら関わることができて嬉しく思っています。民主的で持続可能な社会の実現のための、自分なりの第一歩です！(足立)

『親と子の土曜クラス そら in 里山』

対象：満3歳児～就学前の親子 月2回 土曜日
2021年前期(4月～10月)クラスは2月下旬頃よりご案内予定です。参加ご希望の方は、HPのお問い合わせフォームよりお知らせください。

『森のアトリエ 秋冬編』

対象：年長児～小学4年生の親子
里山で「発見・つくる・あそぶ」をとことん楽しむ！
1月30日(土)・2月27日(土)・3月27日(土)
各開催日で参加者受付中 詳細はHPにて

発行日：2021年1月27日
発行者：認定NPO法人コクレオの森
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
TEL&FAX: 072-735-7676
メール: info@cokreono-mori.com
URL: <https://cokreono-mori.com/>



「対話」が育むもの。それは、自己肯定感、信頼関係、そして平和。 守安 あゆみ

最近、「対話」とは何かについて改めて考える機会がありました。対話とは、自分も相手も大切にするという心の態度で話し合うこと。対話とよく似た言葉に「議論」「討論」があります。これらは自分の考えの正しさを主張し合うものなので、自分の考え方が受け入れられなかった時に勝ち負けのようになってしまいます。対話は、どのような意見でも「なるほど、あなたはそう思うんですね」といったん受け止めます。相手の話を聴く姿勢です。お互いが納得できるものを一緒に探す旅。それが対話なんじゃないかと思っています。

でも、実際はなかなか大変で、自分と違う意見を聴くについ「それはおかしいんじゃないか」と相手を批判する気持ちが生まれてきます。それはもう自動的に。わたしたちは基本的に「自分が正しい」と思いこんで生きていますから、それをそのまま相手にぶつけてしまうと相手は非難されたと感じ、対話がむずかしくなってしまいます。実は、批判したくなるようなネガティブな感情が

表れてきたとき、それは自分の中にある「～すべき」という観念を見つけるチャンス。思い込みに気づき、それを手放すことで、人はどんどん楽に幸せに生きていけるようになります。「自分との対話」です。

わたしは子どもたちとの話し合いの場やスタッフ会議で、そんなネガティブなもやもやした気持ちになる時が時々あります。それはまさに、わたしの中の「～すべき」という観念が表れているサイン。そんな時はちょっと深呼吸して、話し合いを俯瞰してみたり、相手の意見に対して「まあ、そういうのもありか～」とゆるめてみるようにしています。そうするとなんだか肩の力が抜け、相手の話が聴けるようになります。

対話は自分も相手も大切にすること。対話の体験を重ねていくことで、自己受容、他者受容が深まります。そうして育まれた人たちがまた別の場で対話を始めていくことで、対話の文化が広がっていく。対話とはまさに、平和への道だなあとつくづく感じる今日この頃なのでした。